

実践報告

報告者

新栄町町内会	会 長	小松 茂夫	様
	総務部長	山田 和宏	様
小口自治会まちづくり委員会	会 長	渡辺 淳	様
	委 員	井田 あつ子	様
小合地区社会福祉協議会	副 会 長	田村 由美子	様
	幹 事	鈴木 弘英	様

コーディネーター

大正大学地域創生学部	准 教 授	金子 洋二	様
------------	-------	-------	---

いきいき新栄町
「見つける・伝える・つなげる」
防災に生きる支え合いを目指して



新栄町町内会

会 長 小 松 茂 夫
 総務部長 山 田 和 宏

1956年(S31)
100世帯で開町

「太陽の季節」石原裕次郎出演

新津第一中学校・市営球場

町内会費 月30円

S56(25年後) 町内会館完成

S60年 508世帯 1706人

H4年 祭り屋台購入

H8年 40周年記念誌「さかえ」刊行

H21年 安否確認訓練開始

H22年 一時避難所集合・組会議



区役所屋上からの新栄町

430世帯 55の隣組



新津一中からの新栄町



三大行事  **新栄町夏祭り 敬老会 (運動会) 新栄町お宝探検ラリー**
組長会議と安否確認訓練 いきいきサロン新栄町
町内美化活動  **春秋一斉,せせらぎ水路,ふれあい緑道,ふれあいゾーン**

町内会組織

- ・ 会長、副会長、総務、会計、広報、厚生、文教、環境土木、衛生、会館管理 役員10名

鶯鳴会(老人クラブ)：60才以上127名 新津緑町と一緒に 区老連に加盟

地域PTA：小中学生をもつ保護者 新津緑町と一緒に

交通安全協会：新津緑町と一緒に 秋葉区に加盟

いきいきサロン：月1回（第1火曜）10時～1時間半程度 一人で来てもさみしくさせない！

防災会：町内会長兼務 安否確認訓練と組会議セットで14年目を迎える

- ・ 町内会からの活動助成金と、独自の会費等により運営

その他、ふれあいしゃっきり体操クラブ、カラオケクラブ、銭太鼓、レクダンス、日本舞踊

町内会館を利用して、高齢者の交流の機会と健康維持を目指して活動



一人で来ても退屈させない

1回100円の参加費でお菓子付き

お楽しみあり お勉強あり、健康体操あり

いきいきサロン新栄町
毎月第1火曜10時

スタッフ16名の知恵しぼりの結晶



新栄町夏祭り 屋台巡行



八月新津まつり
近々日曜

お囃子練習 六月開始
アンケートで神社が欲しいの声あり

ふれあいのまちづくり委員会
(参加団体の長、民生委員、特別委員、町内会役員で構成)







75才以上を対象に
案内

金婚式夫婦に祝意



敬老会(9月敬老の日)



しゃつきり体操
ふれあいクラブ

毎週金曜 10時～11時



ほっとサポートしんえい
どんちゃんまつり



安否確認訓練 & 組会議

となり組単位で実施（震度7の地震発生を想定）

- ・一時避難所で安否確認（組長中心に）
- ・災害本部（新栄町公園内に設置）に報告
二次避難所へ・組会議・茶話会・昼食会etc

※自主的实施を重視

一中・
体育館・
健康センター





幹事会《毎月15日夜6時～1時間？半》

- ・一貫した「見つける・伝える・つなげる」
- ・傘下団体の情報共有（担当の複数制）
- ・トップダウンとボトムアップ
- ・その後の一杯も大事
- ・役割を超えた適材適所（担当者が一人で背負わない）



新栄町メディアシップ



- ・毎月初旬発行 全戸配布
(A4 4頁 年2回カラー)
- ・見つける/伝える/つなげる
- ・足で稼ぐ広報
- ・良い点を伸ばす広報
- ・シリーズものの連載
 - ◆新栄町の子供たち[僕の声私の声]
 - ◆新栄町にこの人あり
 - ◆組紹介
 - ◆町内のお店・施設のご紹介
 - ◆役員の横顔
- ・関係機関に配付 プライバシー



開町六十五年記念事業

鉄道の町
鉄道の町内会

町内会運営の秘訣

- ◎町内会役員の活動の見える化
- ◎人材の発掘 役員の特性(特長)を活かす
役員候補の発掘
- ◎多様な広報の充実
(何でもあり・町内だからこそその報道)
- ◎すべての道は防災・減災に通ず
- ◎町内会費値上げは困難⇒市や社協等助成制度の活用
- ◎民生委員との密接な連携
- ◎ハウレンソウ(報告・連絡・相談)の共通認識
- ◎子供参加事業は保護者参加につながる
- ◎多くの参加を求めてPRに努める⇒少人数でも盛り上げる

祭りの盛んな地域は
災害に強い！



ご清聴ありがとうございました





小口の紹介

位置：秋葉区の東部 新関地区

小学校区： 新関小学校

中学校区：新津第五中学校

人口：279人

世帯数：106戸

高齢化率： 52.7 %

新関地区 集落別の人口と高齢化率

地域名	総人口	65歳以上人口	高齢化率
小口	279	147	52.7
大関	472	158	33.5
岡田	137	52	38.0
下新	156	69	44.2
市新	82	35	42.7
金屋	157	61	38.9
新郷屋	75	28	37.3
六郷	181	78	43.1

小口まちづくり委員会とは？

- 自治会長の諮問機関
自治会長から諮問されたテーマについて検討し、答申する。

- 平成18年度（2006年度）に発足

- 委員の任期は2年

- 自治会長が任命（15名程度）

- 第8次まちづくり委員会男性11名、女性4名

- 現在 第8次まちづくり委員会の任期が終わったばかり

小口まちづくり委員会とは？

	任 期	諮 問 テ ー マ
第1次	平成18~19年度	運動会開催の是非について 観音山の整備について
第2次	平成20~21年度	町内各種行事・事業等について 小口自治会条例規則の改訂について
第3次	平成22~23年度	観音様境内のご神木の処理について グラウンドの石積みについて
第4次	平成24~25年度	石油採掘労働者像の移設について
第5次	平成26~27年度	となり組の再編について 新潟市民文化遺産の推薦について
第6次	平成28~29年度	グラウンドの石積の補修について
第7次	平成30~令和元年度	自治会長の選任方法について
第8次	令和2~3年度	支え合いのしくみづくりについて

「支え合いのしくみづくり」について

委員各自の「支え合いのしくみ」として持っているイメージをフリートークで出し合う

何かやってほしくても他人様にお願いするのは気が引ける。

手助けしたいと思っても「おせっかい」と思われても困る。

近所づきあいの中で、他人どうしだとどうしても遠慮してしまう。何かやってほしくても個人対個人だとお互い遠慮してしまう気持ちがあるのではないかな。

組織の取り組みだと援助を受ける方も頼みやすいし、助ける方も声をかけやすいのでは。

対象となる高齢世帯が何をしてほしいのか、何に困っているのか、アンケート調査をやってはどうか。

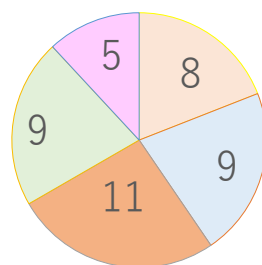
アンケート調査の実施

調査対象世帯

- ① 75歳以上の独居世帯（8戸）
- ② 75歳未満の独居世帯（9戸）
- ③ 親が75歳以上の親子2人世帯（11戸）
- ④ どちらかが75歳以上の夫婦2人世帯（9戸）
- ⑤ ①の離れて暮らす家族（5人）

合計 37世帯+5人

調査対象世帯



- ① 一人世帯（75歳以上）
- ② 一人世帯（75歳未満）
- ③ 二人世帯（親子）
- ④ 二人世帯（夫婦）
- ⑤ ①の家族

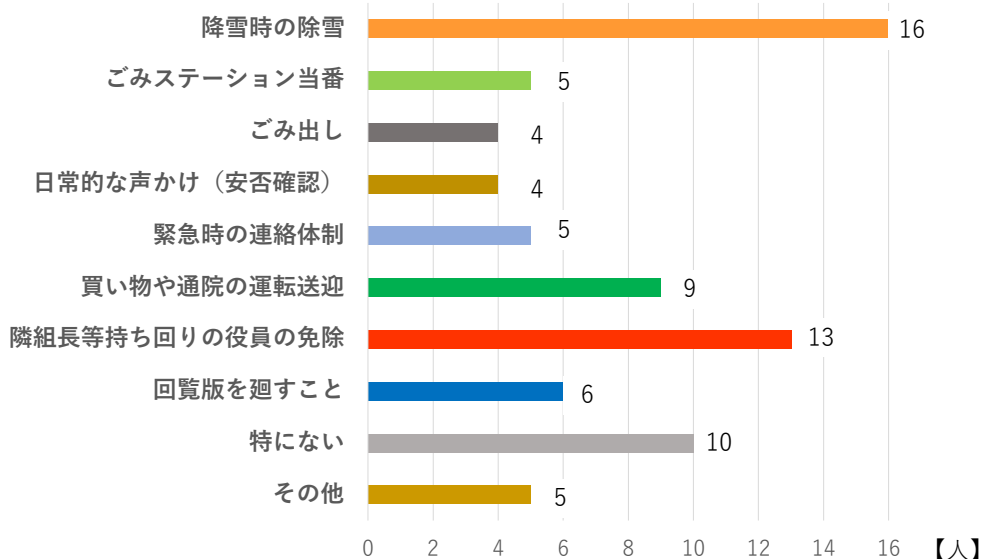
アンケート調査の実施

調査項目

日常生活を送るうえで自分でやるのはきつい。できれば誰かに頼みたいと思っていること。不安に思っていること。

- ・ 降雪時の除雪
- ・ ごみステーションの当番
- ・ ごみ出し
- ・ 日常的な声かけ（安否確認）
- ・ 緊急時の連絡体制
- ・ 買い物や通院の際の自動車運転・送迎
- ・ 隣組長等、持ち回りの役員の免除
- ・ 回覧板等を廻すこと

アンケート調査結果 （回答数 35世帯）



答申事項（支え合いのしくみとして考えられること）

- ① 除雪ボランティア組織の創設
- ② 持ち回りの役員の免除
- ③ ごみステーション当番・ごみ出し・回覧板を廻すこと
- ④ 日常的な声かけ（安否確認）
- ⑤ 緊急時の連絡体制

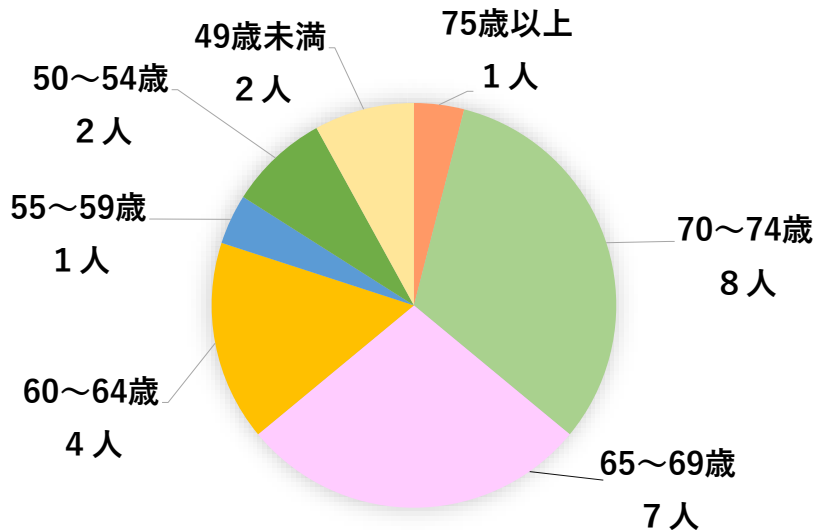
除雪ボランティア組織の創設

① メンバーの募集

・ 自治会長名で協力を志願するメンバーを募集

・ 25名が応募（うち女性3名）

除雪ボランティアの年代構成



基本となる申し合せ事項

・ 支援対象者

高齢の独居世帯+在宅の要支援護者宅（10軒）

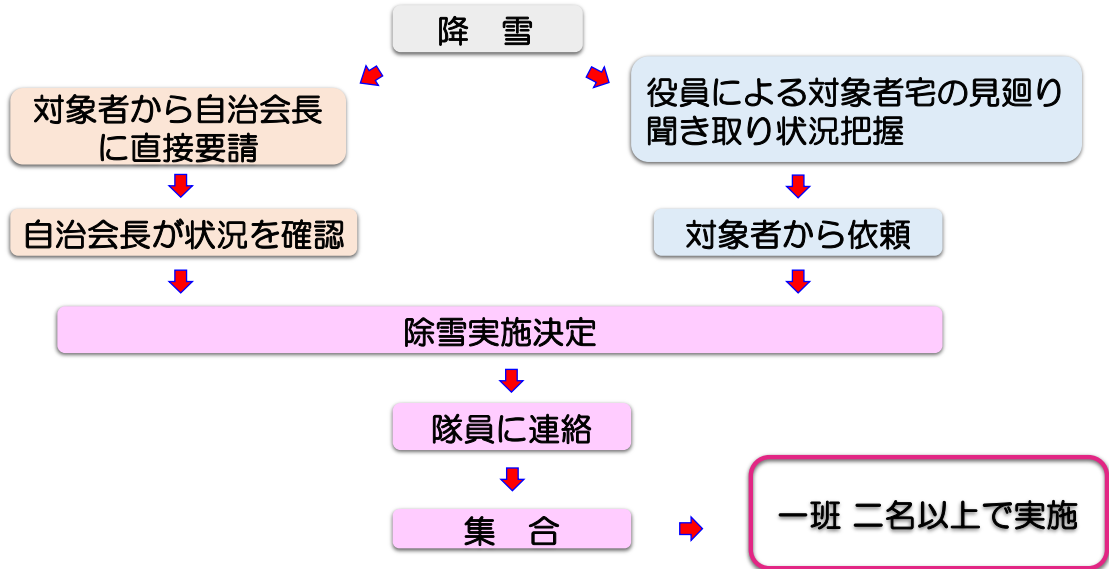
・ 除雪の範囲

- ・ 支援対象者宅の玄関から道路まで
- ・ 児童生徒の集団登校集合場所

・ その他申し合せ事項

謝礼等を出さない、受け取らない

除雪実施の流れ



ま と め

除雪ボランティアは支え合いのしくみづくりの出発点

降雪期以外で何ができるか

これをきっかけに地域で支え合う意識を醸成

援助を受ける側が遠慮してしまわない、援助する側が負担を感じない

キーワードは「遠くの親戚より近くの他人」

「地域の連携から支え合いへ」

住みたい小合 住みつづけたい ふるさと小合

小合地区社会福祉協議会
副会長 田村由美子
幹事 鈴木 弘英

小合地区の概要

- ◇秋葉区の西側に位置する。
- ◇稲作農家・園芸農家が多い地域。

自治会・町内会数	14
人口	3,660人
世帯数	1,246戸
高齢化率	38.6%



秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画より（令和2年3月末現在）



令和3年度の活動目標



少子高齢化が進む中で、住み慣れた地域で安心して暮らせる組織作りが大切になるため、自治会・町内会・民生児童委員・老人クラブ・サロン等の連携で地域の安心、安全を確保しつつ住み続けたい小合を確立していく。

組織図

小合地区社会福祉協議会

支え合いのしくみづくり

- ①自治会・町内会
- ②民生児童委員
- ③老人クラブ委員
- ④いきいきサロン代表者
- ⑤コミ協役員
- ⑥コミ協専門部委員

いきいきサロン支援

- ①いきいきサロン代表者

子育て支援

- ①コミ協専門部「学校部」
- ②親子食堂
- ③子どもの居場所づくり

昨年度の取り組み

地域課題を共有し問題解決を図ることを目的に、小合地区から選出されている「支え合いのしくみづくり構成員」で小合地区の14自治会・町内会を訪問。



各自治会・町内会の困りごとや課題を話し合った。



地域の困りごとが聞けた！

- ◇大雪
- ◇年々増加するひとり暮らしの問題
- ◇ゴミ出し
- ◇免許証返納による買い物、通院の問題

今は元気な人も、
これから年を重ねると
同じ課題に直面するの
ではないか？



顔なじみの関係づくりが必要

今年度の取り組み

- 1 見守り事業
- 2 おせち料理配食事業



小合地区見守り事業

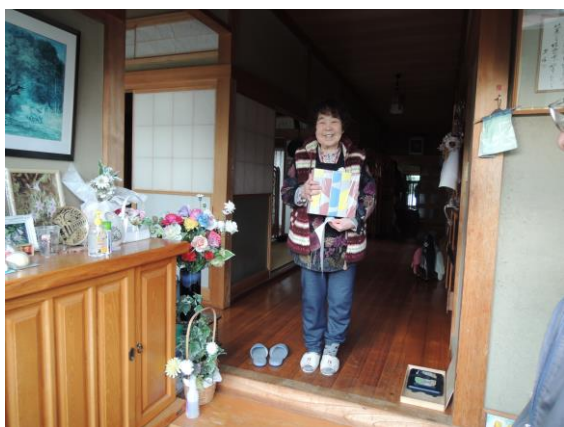


地区社協役員会での検討

	開催日	内容
①	令和3年7月14日	自治会・町内会へ訪問した結果を報告 ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への訪問を提案
②	令和3年9月25日	見守り事業に全員一致で賛同
③	令和3年11月6日	見守り事業の詳細決定

見守り事業の内容

- ◇目的 高齢による外出の減少や一人暮らしによる孤独の解消
- ◇名称 なじらて訪問
- ◇対象者 75歳以上のひとり世帯、75歳以上のみの世帯
障がい者のひとり世帯
(なじらて訪問世帯名簿を作成)
- ◇訪問者 自治会・町内会の役員、地区社協の役員
- ◇訪問頻度 年2回(7月、12月)
- ◇持参品 ティッシュボックス



訪問世帯数

高齢者のひとり世帯 4 6

高齢者のみの世帯 2 1

障がい者のひとり世帯 0



訪問してみての声

- ◇訪問を喜んでいた。
- ◇また来てほしいという要望が多数あった。
- ◇ひとり暮らしであり、コロナで会話することが減ったせいか、1時間以上も話し込んだ人がいた。
- ◇何もないのに訪問することは難しいため、なじらて訪問という活動を口実に訪問出来たので良かった。

なじらて訪問の効果

- ◇家のすだれが壊れたので、直してくれる人を紹介して欲しいと頼まれ、簡単だったので、自治会長が修繕した。
- ◇住んでいることは知っていたが、ゆっくりと話をしたのは初めてであり、顔見知りになれてよかった。

なじらて訪問の課題

- ◇ひとり世帯であっても訪問を断る方もいた
- ◇家族表の必要性
- ◇回覧板の回し方
- ◇別居している子どもとの連絡
- ◇認知症の人の見守り
- ◇事業を継続するため、各自治会・町内会の役員が
交替する時の引継ぎの徹底

「老人クラブ」や
「いきいきサロン」に
誘い、一人ぽっちを
なくす



おせち料理配食事業



おせち料理配食事業の目的

年末の12月30日におせち料理を配食することで、75歳以上のひとり暮らし世帯や障がい者のひとり世帯の方に、少しでも孤立感を解消し、暖かいお正月を迎えていただく一助とすること。（秋葉区社会福祉協議会事業）

おせち料理配食事業の取り組み

今年度から小合地区の対象者には、地域での顔の見える関係性を築くために、民生児童委員と連携しながら小合地区社協の役員等で配達を実施する。



民生児童委員といきいきサロンの役員の2人体制で配達をする。



民生委員と地域の方が訪問したことにより、会話が弾み大変喜ばれていた。



今後の検討課題

- ①見守り事業やおせち料理配食事業の効果や課題を地域で共有し、問題解決をしていきたい。
- ②困りごとへの対応を検討したい。
ゴミ出し・買い物・通院・除雪など
- ③長年住み慣れた地域で安心して暮らせるように、お互いが見守り合い、助け合っていけるような地域にしていきたい。



小合地区の活動紹介



花いっぱい運動



愛さつ運動



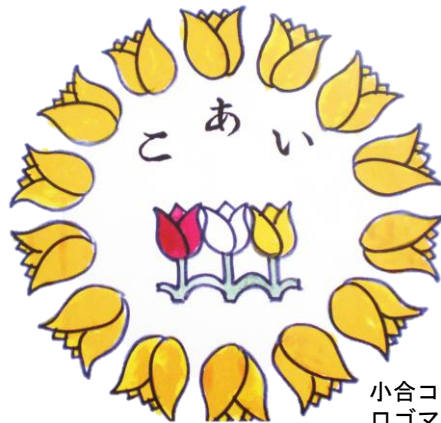








ご清聴ありがとうございました。



小合コミ協
ロゴマーク

This image shows a single page of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.



社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会

秋葉区社会福祉協議会

〒956-0864 新潟市秋葉区新津本町 1 丁目 2 番 39 号 新津地域交流センター2 階

電話番号 0250-24-8376 / FAX 番号 0250-23-3322